

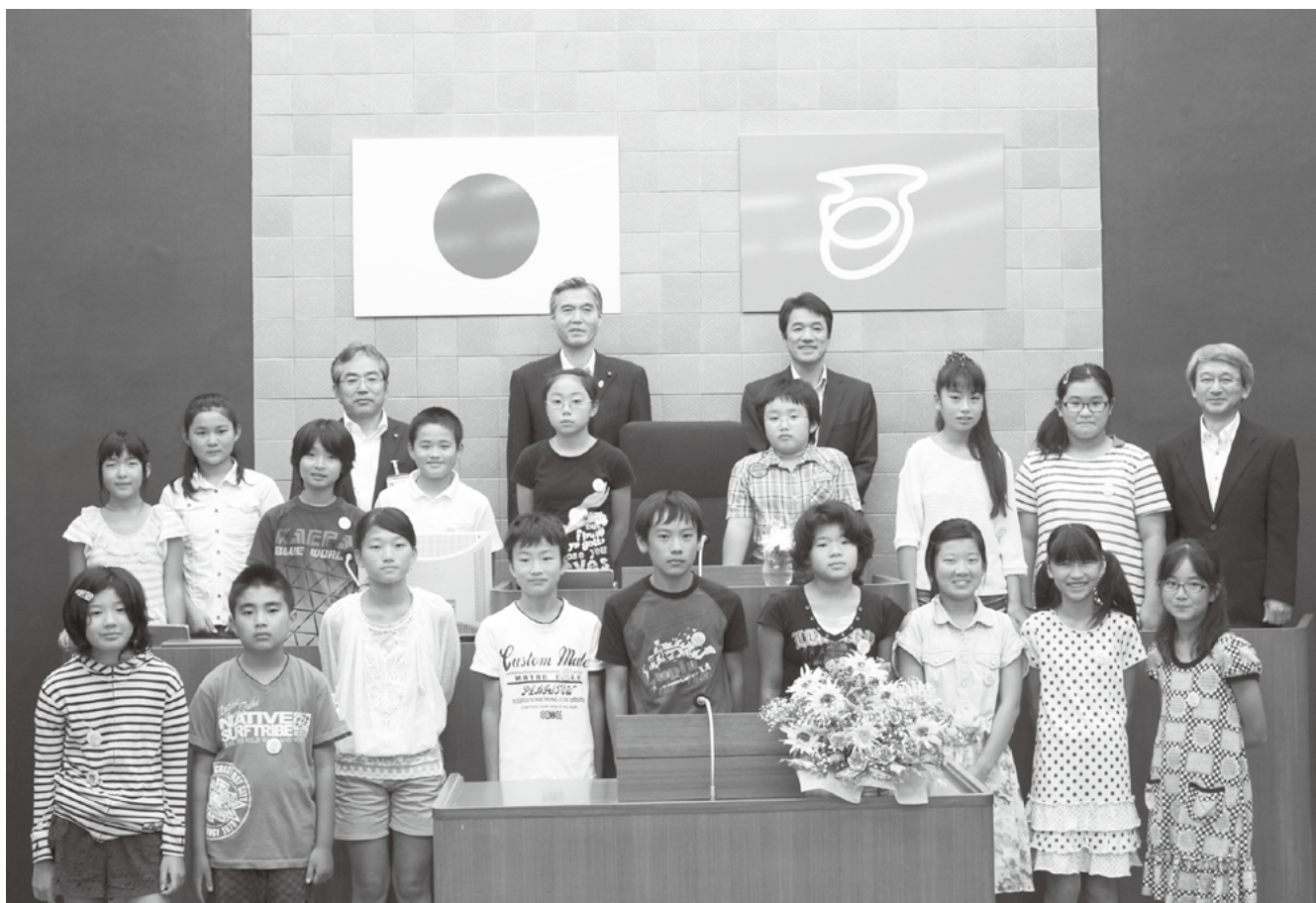


伊豆市

No.42

議会だより

発行:伊豆市議会 <http://www.city.izu.shizuoka.jp> 編集:議会広報委員会
〒410-2413 静岡県伊豆市小立野38-2 TEL 0558-72-9906 2014.11.1発行



8月12日、伊豆市制施行10周年記念事業として、「子ども議会」を開催しました。

市内の小学6年生17人が子ども議員となり、市長や教育長に「わたしが住みたい10年後の伊豆市」と「楽しい学校づくり」をテーマに、提案をしました。詳細については、P13をご覧ください。

目次 CONTENTS

- 9月定例会の概要 2
- 一般質問 9
- 子ども議会 13
- 行政視察報告・意見書 14
- 12月定例会のお知らせ 16

一般会計の歳出総額は、 163億472万円でした。



平成25年度各会計決算総括表

会計名	歳入	歳出	差引き額	
一般会計	175億417万円	163億472万円	11億9,944万円	
特別会計・企業会計	公共用地取得事業	2,932万円	2,917万円	15万円
	国民健康保険	52億7,418万円	48億7,975万円	3億9,442万円
	後期高齢者医療	3億6,125万円	3億5,895万円	230万円
	介護保険	29億7,717万円	29億213万円	7,504万円
	簡易水道事業	3億1,951万円	2億5,863万円	6,087万円
	下水道事業	12億7,748万円	11億5,688万円	1億2,060万円
	農業集落排水事業	1億3,553万円	1億2,087万円	1,465万円
	財産区（7財産区）	762万円	164万円	598万円
	上水道事業	9億5,543万円	7億4,253万円	2億1,290万円
	温泉事業	8,826万円	5,627万円	3,199万円

平成25年度決算の認定

各常任委員会の決算審査では
次のような質疑がありました

◆一般会計歳入歳出決算の認定

問 急傾斜地崩壊対策事業の県事業ですが、予算では7地区となっていたものが、6地区となった理由は。

答 市では、なるべく多くの事業をしていただくよう県に要望していますが、県も県の予算で行うものと、国の補助も受けて行うものもあり、予算がつかなかった場合は事業執行できないこともありま

問 湯の国会館管理事業の利用者数が前年度比93・4%となっています。指定管理にする目的は、サービスを向上させ、利用率を向上させるということだったと思います。この数字をどう見るか。

答 平成25年度は機械の故障があり、前年度に比べ営業日数が減ったことにより総利用人数も減りましたが、1日平均にすると4人増えています。また、経営については、板前さんを入れ、売り上げが

伸びている状況です。

問 職員の研修について、延べ人数で352人が研修を受けているということ、ほぼ全員が何かしらの研修を受けていると受け止められますが、この中でOJT研修というのはどのようなものか。また、これらの研修の成果をどのように評価されているか。

答 OJT研修はオン・ザ・ジョブ・トレーニングの略で、職場の中で部下を育成するために、それにあたる職員を育成するというような研修内容です。

また、その他研修は、職務能力の向上や行政課題への対応を目的とするもの、接遇やビジネスマナーなどの研修にも力を入れていますが、研修の成果については、検証しづらい部分もあり、今後は、人事評価に反映できるようにシステムづくりを検討したいと考えています。

問 固定資産税の不納欠損額1億800万円について、かなり多い額であるが、特別な大口があったのか。

答 大口がありました。競売を行い、物件は売れましたが、他への負債が多く、伊豆市の債権にまで回ってきませんでした。このようなケースが多く、100万円単位で何件かあると、金額が多くなります。

問 焼却処理事業、焼却処理委託料3178万円の支出について、焼却処理の委託先と1t当たりの委託料はいくらか。

答 昨年、焼却炉の大規模改修を行いました。その工事中の4・5・6・1・3月に伊豆市沼津市衛生施設組合へ委託し、4・5月は、伊東市へも委託しました。1t当たり約2万円でお願いました。1t当たりの単価は、各々の施設において1年間の焼却費用から割り出しますので、多少の差があります。

問 検診事業について、1割程度の増を見込んだが、予算執行が少ないということは、どのようなことが原因と考えられるのか。

答 原因の一つとして、対象者が高齢化しているため検診を受ける

ことに戸惑っている方がいたということです。

また、25年度から、検診案内通知を、検診対象者全員に対し、年度の始めに通知することにしました。これにより、40代、50代の方が新規に受診して、乳がんなどが発見された方もいました。

しかし、検診案内通知が、年度当初だったので、検診時期を忘れて受けなかった方もいたため、受診率が伸びなかったと考えられます。

問 田方地区教員研修協議会が創設されたが、その成果について説明を。

答 研修内容を見直し、採用して1年目から6年目までの教員には、毎年、授業のつくり方や子供の指導方法などについて学ぶこととしていきます。いろいろな指導者からの研修を重ねることにより、成果はあるものと考えます。今すぐどの程度効果が上がっているのかという答えは、困難ですが、各校から、年2回の研修ではあるが、現場で指導できない部分について、じっくり指導しても

らえるのでよい機会であるという声があります。

◆国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定

問 ジェネリック薬品の推奨における市の取り組みとその成果について説明を。

答 昨年の9月、保険証の更新時に、ジェネリック薬品推奨の案内を同封して各世帯に送付したところ、今年の1月診療分からジェネリック薬品の使用する割合が上昇しました。それまでは、使用率が43%前後でしたが、毎月、使用率が増え、5月診療分は50%に達しました。案内を同封した効果があったものと思われれます。

◆上水道事業会計利益の処分及び決算の認定

問 天城地区の企業債は、非常に利率の高いものが残っていると思うが、借り換えはできないのか。

答 償還金の利率の高いものに関しては、国・県にお願いし繰上償還が出来ないか折衝している段階です。なるべく安いものに借り換えられるよう努力しています。

討 論

◆一般会計歳入歳出決算の認定

反対討論 (森 良雄議員)

●決算成果説明資料には、主要な工事概要が記載されていますが、なぜ500万円以上しか書いてないのか、なぜ落札率が計算できないのか。隠ぺいしようとしているとしか考えられない。伊豆市の自然環境の悪化について、この決算書では何もやってないと言いかいようがない。狩野川の肝心な下流部の水質測定は、どうもしてないようだ。森林整備事業、補助金や交付金の有効な使い方、無駄な支出を止めようとする考え方は全くない。これでは、森林整備は成り立ちません。商工費は9億円を超えている。なぜ商工業が衰退するのか、観光業・観光客は減少するのか。適切な財政の運用ができていません。無駄遣いが多すぎます。補助金狙いのやからが多すぎます。観光案内サービス委託料、修善寺駅前レンタサイクル、伊豆魅力プロジェクトの成果が上がっていない。市の目的に貢献していな

い。サイクルメッカ伊豆推進協議会負担金の成果も上がっていません。伊豆市がするものではありません。トレイルランニングは自然破壊の最たるものだ。ジオパーク推進事業、協議会制度が悪い。ただ、15市町がくっついて何だかんだやっているだけ。健康づくり推進事業の自身が全く分らない。修善寺駅ができました。北口の階段の安全が確保されているとは思わない。スロープも車椅子の方が通るには至難の技だ。伊豆市の子どもたちは、真つ暗な道歩いている。子どもたちの安全・安心を確保するのは急務ではないのか。F M I S、これからは市民への情報の発信、市民からの情報の受信の時代じゃないのか。値段が高すぎる。もつと多くの市民が利用できるようにしなければ、伊豆市の財政をどんどん投入するよ

うなことになってしまいます。

賛成討論

(山下 尚之議員)

●それぞれが、伊豆市の振興や発展のための基礎・基盤づくり、住民福祉の安定と向上にとって、必要不可欠な歳出であり、その効果・

効能・功績は計り知れないものがあると確認し、判断し、期待して、今後の予算編成に向けて、反対意見にも耳を傾け、監査意見書にもあるように事後評価、検証等を怠ることなく、市の主要施策の選択と集中を徹底し、大胆で革新的な予算編成を期待する。

反対討論

(木村 建一議員)

●一般会計決算の判断基準を市長が施政方針で述べた伊豆市の最大の課題、人口減少に置いております。定住促進補助制度、充実させました。平成22年度から平成25年度までの転出数と転入数を引き算すると、その差が今はどんどん減少しております。人口減少を食いとめる意味では、プラスの取り組みとなつていきたいと思います。人口は5年間で2千人減少しているという現実があるということであり、子どもを産み育てやすい伊豆市をどうするかということにかかっていると思います。子育て支援事業では、病児病後児保育事業を引き続いて実施、新たに不育治療療費の助成や伊豆市民専用の24時間無料の電話健康相談事

業を行うなど、市民の暮らしや健康を守る取り組みは評価していますが、子どもを産み育てやすいねと言われるには、距離があると思います。親の収入が少なく十分な教育費を捻出することができず、子供は進学に対する意欲が湧かなくなるといふ不十分な教育背景によって、進学や就職に悪い影響が出るといふ日本の子どもの相対的貧困率が社会問題になっていきます。教育の公費負担は現状のままでもいいのかということも聞いた。子育てしやすい伊豆市へ総力を挙げた政治に教育委員会も積極的に乗り出すべきだと思います。市の主要な事業に対する市長の見解が聞ける決算議会を望みます。

賛成討論

(青木 靖議員)

●平成25年度一般会計は、歳入歳出とも増となりましたが、いずれも今やらなければならぬ不可欠な事業が行われた結果によるものであると判断します。監査委員の審査意見にあるように市税の徴収率の向上、また、市内公共施設の維持管理にかかる費用と今後の運営方針を財政見通しとあわせ、市

民と情報共有していくことなどは、次年度以降の継続課題であるということも確認されるところで、その他個別事業を見ると、いずれも伊豆市民の福祉の増進を図り、地域の行政の役割を担っているものであると評価できると判断します。決算成果説明資料等により、詳細な説明があり、主要施策の成果が報告され、審議が行われてきました。その中で、事業の成果が多く上がっていることが確認されており、一般会計決算は、認定に値するものであると判断いたします。

反対討論

(西島 信也議員)

●食肉加工センター管理運営事業2670万円、25年度は1頭9千円で買って、売ったのは平均1頭9500円で差額は5000円。大赤字もいところだ。

修善寺駅前レンタサイクル事業593万円は、9カ月間行い、職員2名を雇って、貸し出した自転車合計296台、1日当たり1台ちよつとです。幾らお役所仕事とは言え、ひどすぎませんか。

サイクルメッカ伊豆推進協議会

負担金1390万円は、ツアーオ
ブジャパン伊豆ステージ開催、サ
イクルフェスティバルの負担金、
ペロドルーム利活用によるブラン
ド創出に使っている。これらの事
業は伊豆市民の生活、福祉には何
の関係もないものばかりです。市
の金は、市民のために使ってこそ、
価値があるもので、一部の企業や
団体のために支出する金は、市民
にとっては無駄遣いです。

天城会館指定管理料2215万
円、市の監査委員は、住民監査請
求に対して、天城ミュージアム展
示業務は観光協会の自主事業なの
で、入場料収入や物販収入は市に
報告する必要がないと言っていた
が、本年6月定例会では、天城ミ
ュージアム展示業務は、自主事業
ではなく、指定管理の本体業務で
あると前言をひるがえしたわけ
です。監査委員も市の執行機関の一
つなので、市の態度がこういうふ
うにころころ変わると、天城会館
の指定管理料支出に不正があるの
ではないかという疑惑が、ますま
す高まってきたところでありま
す。

平成26年度補正予算

◆一般会計補正予算(第3回)

共通番号制度に係る関連システ
ム改修費及び負担金が関係課全体
で2630万1千円、医療体制強
化のための市内公的病院等補助金
1億2886万8千円、修善寺温
泉街遊歩道改修700万円、湯
道大滝吊橋復旧工事2000万
円、中心市街地まちづくり道路
体系検討業務委託料300万円、
小土肥津波避難タワー設計委託
料900万円等のほか、前年度
繰越金の2分の1に相当する額
5億5702万9千円を財政調整
基金に積み立てるもので、総額
7億1610万円を増額するも
の。

26年度一般会計は、
総額175億300万円
となりました。

◆介護保険特別会計補正予算

(第2回)

25年度決算に伴う介護給付費や
地域支援事業交付金の国庫支出金
等の清算に伴い増額するもの。

◆簡易水道事業特別会計補正予算

(第2回)

工事費を増額するもの。

◆下水道事業特別会計補正予算

(第2回)

消費税を増額するもの。

◆水道事業会計補正予算

(第2回)

水道料金等徴収業務の民間委託
を実施するために債務負担行為を
設定するもの。

各常任委員会の審査では
次のような質疑がありました

◆一般会計補正予算(第3回)

問 中心市街地まちづくり道路体
系検討業務委託料については、検
討についての業務委託ですが、そ
の先にある効果をどのように考え
ているのか。

答 修善寺駅周辺には信号機が4
カ所あり交通渋滞が発生していま
すが、その渋滞の緩和や歩行者の

安全確保のための改善を行い、中
心市街地に人が入りやすく魅力あ
る拠点となることを最終目的に考
えています。

問 観光施設整備事業の恋人岬ホ
ードウォーク改修工事が6000
万円の減額補正となっていていま
すが、金額が大きいのでその経緯に
ついて説明を。

答 当初予算は2億3360万円
でしたが、契約金額が1億721
5万2千円ということで6000
万円の減額補正としました。この
事業については、環境省の最終的
な指示で、24mで計画していた幅
員を18mに変更したことにより材
料のポリウムが減ったため減額
となりました。

問 学校再編専門員報酬の小中一
貫校へ向けて校種の違うものを一
緒にしようという伊豆市にとって
初めての業務である専門員の雇用
の必要性は。

答 新たな仕事であり、今の職員
体制では厳しいため、専門員の雇
用が必要です。

討 論

◆水道事業会計補正予算(第2回)
問 水道料金徴収業務委託について、現行のやり方と業務委託についての違い、優位性について説明を。

答 現在は、職員で徴収業務を行っていますが、水道の検針に約1000万円、電算システム費に約1000万円、携わっている職員の給与を含めると、約4000万円のお金がかかっています。今回、業務委託を考えたのは、電算システムの契約が今年で満期になること、将来を見据え、コンビニ収納などを行うには、システム改修が必要であること。また、現在は職員の数も手薄であり、収納率も伸びず未収金が年々増えている状況ですが、他の市町の実績から見ても業務委託することによって収納率のアップを期待できるメリットもあります。現在の経費が約4000万円、委託料は4600万円と見込んでいますが、収納率のアップでその差を賄えるという判断で委託をしようとするものです。

◆一般会計補正予算(第3回)

反対討論 (西島 信也議員)

●湯道大滝吊り橋復旧工事、この吊り橋は直しても渡る人はほとんどいません。大体この吊り橋を通行しなければならぬ理由、必要性はゼロです。誰も使わないようなところに、どうやって2000万円もかけるのか。お金の無駄遣いの典型的な事業です。ジオパーク推進事業中央拠点設計調査負担金は、修善寺総合会館内にある郷土資料館を伊豆半島ジオパークの中央拠点に変えようとするものです。郷土資料館という市民の財産、施設を伊豆半島ジオパークなどという伊豆市にとって、ごくごく比重が小さいものになぜ明け渡さなければならぬのか。

賛成討論 (小長谷 順二議員)

●少子高齢化が進む伊豆市では、医療環境の充実が不可欠であり、明日来るかもしれない大地震に備えた防災対策は緊急を要します。

それに加え、伊豆市の玄関口である修善寺駅周辺の道路整備や平成27年度から段階的に普通交付税が減額になるため、財政確保のための基金の積立では必要となります。今回の補正予算は、市民の生活を守り、まちを活性化させる重要な案件である。

反対討論 (木村 建一議員)

●共通番号制度関連システム改修予算は、大きな問題だと思えます。基本的な権利を侵しかねない危険性があります。デメリットが多すぎる。所得の掌握は、残念ながらできません。不正を防げると言いますが、正確な所得の予測が非現実的であるということは、社会保障番号大綱で政府自身が認めています。地方公務員の守秘義務との関係で、情報提供ネットワークシステムを通じて、マイナンバー情報の提供の求めがあった場合には、求めを受けた者は、ナンバー情報を提供する義務があり、個人情報提供については、守秘義務が解除されるため、ありとあらゆるものが、この制度によって国で掴めるという状況であります。そ

報 告

◆平成25年度伊豆市一般会計予算の継続費清算報告について

地方自治法施行令の規定に基づき、清算の報告をするもの。

◆平成25年度伊豆市健全化判断比率の報告について

◆平成25年度伊豆市資金不足比率の報告について

地方公共団体の財政の健全化の法律の規定により、監査委員の意見をつけて報告するもの。

その他

◆修善寺駅西広場及び鉄道関連工事委託に関する協定の変更について

平成23年12月に協定を締結し、伊豆箱根鉄道株式会社に委託した修善寺駅西広場及び鉄道関連の工事の事業費の精算により工事費が確定しました。消費税、人件費、資材の高騰のため、増額となりましたので協定の内容を変更するもの。

●契約金額
 変更前 9億3746万500円
 変更後 9億4816万770円
 増加額 1055万270円



▲完成した修善寺駅

◆業務委託契約の変更について (汚泥再生処理センター建設工事業務委託)

平成24年12月に議決をした汚泥再生処理センター建設工事業務委託について、委託金額に変更を生じたため、地方自治法の規定により議会の議決を求めるもの。

●契約金額
 変更前 9億3975万円
 変更後 9億8676万2940円
 増加額 4701万2940円



▲建設中の汚泥再生処理センター (田代地区)

人事

◆人権擁護委員候補者の推薦について

任期満了に伴い、植木和久氏うえきわきひさが候補者になることに同意

任期は、平成26年10月1日から3年間

各常任委員会の審査では 次のような質疑がありました

◆業務委託契約の変更について (汚泥再生処理センター建設工事業務委託)

問 現在のし渣さ(し尿及び浄化槽の汚泥の中に含まれるごみ(ビニル類など)の処理方法と量はどれぐらいなのか。新しい設備では、し渣の量はどのくらい出るのか。し渣の袋詰めは、なぜ自動で行わなくてはいけないのか。

答 現在、し渣は、清掃センターの焼却炉で職員が手作業で袋詰めをしてから焼却処理をしています。

し渣はごみとして処理をするので、毎日計測はしていませんが、し渣の量は、し尿の搬入場所、合

併浄化槽や単独浄化槽によっても異なります。

新しい施設は、水処理に悪い影響を与えないよう、前処理でごみあるいは夾雑物きょうざつぶつを除去する考え方で、性能もよくなりますので、し渣が増えることが考えられます。設計上のし渣の量は、社団法人 全国都市清掃会議が発行する設計基準で計算すると、1日216kgという数値になりますが、実際に稼働してみないと正確な量はわかりません。

袋詰め作業について、現在は、職員の手作業ですが、し渣から出る「硫化水素」は人体に多大な影響を及ぼす可能性があり、「除菌」という工程がないので便に付着していた菌がし渣にそのまま残り、職員の手に触れる可能性もあります。労働安全衛生法第22条では、排気、排液又は残さい物による健康障害について、防止するための必要な措置を講じなければならぬと定められているため、関係法令にしたがい、職員や施設の安全衛生管理を徹底するため、し渣の袋詰めは自動化で行いたいと考えます。

平成 26 年第 3 回（9 月）定例会で審議した議案

■賛否が分かれた議案

件 名	議決結果	永岡 康司	三田 忠男	小長合 朗夫	山下 尚之	山田 元康	青木 靖	大川 明芳	梅原 正次	小長合 順二	西島 信也	森島 吉文	杉山 誠	室野 英子	森 良雄	木村 建一
-----	------	----------	----------	-----------	----------	----------	---------	----------	----------	-----------	----------	----------	---------	----------	---------	----------

決算の認定

平成 25 年度伊豆市一般会計歳入歳出決算の認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×	×
平成 25 年度伊豆市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
平成 25 年度伊豆市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
平成 25 年度伊豆市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
平成 25 年度伊豆市水道事業会計利益の処分及び決算の認定について	可決 認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
平成 25 年度伊豆市温泉事業特別会計利益の処分及び決算の認定について	可決 認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○
平成 25 年度伊豆市財産区特別会計歳入歳出決算の認定について（7 財産区）	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○

補正予算・その他

平成 26 年度伊豆市一般会計補正予算（第 3 回）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×	×
平成 26 年度伊豆市下水道事業特別会計補正予算（第 2 回）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○
平成 26 年度伊豆市水道事業会計補正予算（第 2 回）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
修善寺駅西広場及び鉄道関連工事委託に関する協定の変更について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○
業務委託契約の変更について（汚泥再生処理センター建設工事業務委託）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○
人権擁護委員候補者の推薦について	適任	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○
魅力ある地方都市の構築に向けた施策の推進を求める意見書	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×

※1 ○賛成 ×反対

※2 議長（飯田正志）は、可否同数の裁決以外は、採決に加わりません。

■全会一致で可決した議案等

平成 25 年度伊豆市一般会計予算の継続費精算報告について	平成 25 年度伊豆市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について
平成 25 年度伊豆市健全化判断比率の報告について	平成 26 年度伊豆市介護保険特別会計補正予算（第 2 回）
平成 25 年度伊豆市資金不足比率の報告について	平成 26 年度伊豆市簡易水道事業特別会計補正予算（第 2 回）
平成 25 年度伊豆市公共用地取得事業特別会計歳入歳出決算の認定について	地震財特法の延長に関する意見書
平成 25 年度伊豆市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について	危険ドラッグ（脱法ハーブ）の根絶に向けた総合的な対策を求める意見書
平成 25 年度伊豆市下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について	



質問

高齢者医療・福祉・介護支援について問う

(三田 忠男議員)

人材（医師・看護師・介護職等）確保について、市独自の支援等の必要性の有無や、地域包括支援センターの機能の充実（リハビリ専門職の活用等）と地域密着型サービス充実のための適正配置について伺い、改正介護保険への取り組みの現状と今後の推進体制について伺います。

市長答

今出来る最大の支援とサービスを提供します

医師・看護師・介護職等の人材確保については、さまざまな方法によりお願いしてありますが難しい状況にあります。地域に密着したサービスを提供するため、県・市・関係団体と連携を取り合いながら、支援を充実する方向で検討します。

また、介護保険法の改正により不都合が生じないような支援体制を整えるよう考えるとともに、民生児童委員・地区ボランティアとの連携も強化していきます。

質問

高齢者タクシー利用券の温泉施設への転用

(西島 信也議員)

市は、80歳以上の在宅高齢者に一人年間1万2千円のタクシー・バス利用券を交付しているが、利用率は、約50%に留まっている。この利用券を多くのお年寄りに使ってもらうために、市営温泉施設の利用も合わせてできれば、福祉の充実につながるが、制度を改正するよう検討する考えはないか。

市長答

利用者も増え、目的に応じた利用を

交付率・利用率ともに68%に達しており、障がい者や高齢者の方の買い物や通院への交通手段を確保する、家に閉じこもりがちの方々の生活範囲を広げることで社会参加の促進をすることを目的にしており、引き続き利用される方の必要に応じて使っていただきたい。



質問

うそですか

(森 良雄議員)

市長は8月8日の「地震防災シンポジウム」でアウトバインの最高速度を、「時速200kmと渋滞は時速70km」と言っていました。その根拠を説明して下さい。

市長
市答シンボリックに言った
私の体感速度です

あくまで私の体感速度です。ドイツでは、だいたい時速70km程度で、前後の車間距離が並行するような定速走行を渋滞と言っています。心地よく走るとだいたい時速200kmぐらいです。

伊豆縦貫道は当分の間、伊豆中央道と修善寺道路を時速50kmで使います。

国際基準の世界の観光地と戦にならないことをシンボリックに時速200kmと70kmと申し上げた訳です。

質問

伊豆市ブランドの
立ち上げについて

(小長谷 順一議員)

ふるさと納税の必須アイテムである「特産品」や「優れた逸品」など伊豆市ならではの魅力ある地域特産品を伊豆市商工会・伊豆の国農協・伊豆漁協・伊豆市観光協会などと連携・協力して「伊豆市ブランド」を認定し、幅広く市内外に発信・PRして伊豆市全体のブランドイメージを高め、伊豆市の産業振興の発展の為に取り組んではいかがでしょうか。

市長
市答伊豆半島全体で
効果的に取り組みたい

伊豆半島全体をPRすることが、まず必要と考えます。

伊豆市ブランドは必要だと思います。修善寺温泉をモデル地区とし、伊豆市の食を語る会プロジェクト会議において、伊豆の資源を活用した6次産業化を進めています。

外部への情報発信強化として、シテイプロモーション事業も含めて進めています。行政は最大限の支援をしますが、基本は商工会で自主的に進めていただければと思います。

第一当事者として頑張っていただけ環境整備は整えます。

質問

「地域づくり協議会」
結成への市の対応は

(山下 尚之議員)

地域に組織の立上げをお願いしている「地域づくり協議会」、一丸となって伊豆市のまちづくりにかかせない組織と考えるが、全地区立上げに向けて市はどのように推進していくつもりか。

また、結成後、各協議会の自主性・地域性を出し易い・使い易い交付金体制の見直しは考えませんか。

市長
市答それぞれの地域に合った
地域づくりを

現在、2カ所からの応募がありました。それぞれ違う形で進んでおります。市長が指導してあなたの地域はこう、あなたの地域はこうですと言うより、文化・歴史・伝統が異なる中で、それぞれの地域に合った、地域づくりを考えていただきたいと思っています。

要綱の見直しについて何処に何が必要か等、まだ検討がされていません。要綱を見直すべきであると言う具体的な指摘事項が有りましたら、今後承ります。

質問
学校教育等における暑さ対策について

(小長谷 朗夫議員)

ここ数年の暑さは、真夏日、猛暑日の連続でした。暑さによる熱中症も過去最多の数に達しています。このような現状を踏まえ、左記のことについて伺います。

- ① 小中学校等の普通教室の暑さ対策で改善された点について。
- ② 普通教室にエアコン設置を考えませんか。
- ③ 運動会練習における暑さ対策の現状はどうなっていますか。

長弁
普通教室の暑さ対策は扇風機で

- ① 小中学校の普通教室の暑さ対策については、昨年度と比べ大きな改善策は打ち出していません。中伊豆小学校の13教室に、扇風機2台をそれぞれ設置しました。
- ② 普通教室へのエアコン設置について、現在、考えておりません。
- ③ 練習の暑さ対策は、各学校では休憩・給水時間をこまめにつくり、体調に変化が無いかに注意しながら練習しています。

質問
自治体間の広域連携の取り組み

(杉山 誠議員)

地方自治法が改正され、「連携協約」制度が創設されました。これは自治体間で協約を結ぶことで、地域の実情に応じて柔軟に役割分担を定めることが出来るもので、基礎自治体として安定した機能の継続が期待できます。

職員不足や財政難の中で、行政サービスの提供が難しくなることも考えられる中で、研究を進めてはいかがでしょうか。

長弁
近隣市町との連携を強化していきたい

自治体間の広域連携は、特に田方郡では昔から色々な連携が進んでおり、既に、かなり成果が挙げられていると認識しています。現時点で、伊豆市が近隣市町と連携事務をとっている事業が9つ、協議中が、伊豆半島グランドデザインと駿東伊豆地区消防の救急広域化があります。また、伊豆の国市とは、ごみ焼却場同様に火葬場なども一緒にやっっていく提案をしていて、今後も近隣市町との連携を強化してまいりたいと考えています。

質問
伊豆市丸山スポーツ公園管理運営について

(永岡 康司議員)

丸山スポーツ公園施設管理条例及び、管理規則において「この施設の利用許可を受けようとする者は、利用予定日前6カ月までの間に公園運動施設利用許可申請書を教育委員会に、提出しなければならない」とあります。

利用予定日前6カ月の予約条件は守られておりますか。条例による、住民に不当な差別の取り扱いをしていませんか。

教育委員会
局長
答
ルールづくりを行い利用促進を図りたい

丸山スポーツ公園管理規則の施設の利用第4条第1項に、利用予定日前6カ月までの間に予約が必要な旨の規定があります。しかし、平成21年度から市内運動施設の有効活用を目的とした伊豆魅力プロジェクトが立ち上がって以来、合宿等での申し込みが増え、大きな大会等は1年前位から内容等を確認した上で教育委員会で施設利用の予約を認めてきました。

今後は、先行予約の規定等ルールづくりに取り組み、利用者に混乱がないようにと考えております。

質問

利便性とサービスの向上について

(大川 明芳議員)

修善寺駅周辺整備事業の1つで、柏久保の鹿島田公園とさくら堤公園の2つの公園が整備されて、皆様に喜ばれ利用されておりますが、なお多くの市民に利用していただくには遊具を設置することで、その遊具を利用して親子が楽しめる、子どもに評判のよい公園施設になるよう、遊具の増設・新設を提案いたしますが、お考えを伺います。

市長
市答市民やお客様の利便性
サービスについて

市民やお客様の利便性サービスについて、まず、公園の遊具の増設・新設ですが、鹿島田公園については、設置場所を、新年度予算計画の中で検討してまいります。

さくら堤公園については、周辺の区から多目的に使用したいという要望があったこと、また、奥まった場所にある、監視の目が少ない場所に、お子さんだけで遊べる遊具の設置については、少し慎重な検討が必要かと考えております。



質問

伊豆市新中学校の新設に向けての準備状況等

(青木 靖議員)

伊豆市第2次学校再編計画では、修善寺・天城・中伊豆の中学校を1校に再編成するとされています。そこで、

- ① 中学校の教育の質をどう高めますか。
- ② 予定されている新中学校の建設、周辺整備等の資金計画はどこまで出来ていきますか。
- ③ 中学校再編後の施設の有効活用、維持管理費の最適化等をどう検討しますか。

市長
教答適正な人員配置と
専門性の重視

① 伊豆市の中学校の教育の質を高めるにはある程度の大きな規模の学級数を維持して、適正に配置された教員数で、専門性を活かした指導が重要である。

総務部長
市答

② 全体事業費は試算値として、33億円と見込んでおり、その財源は公立学校施設整備事業の補助金、合併特例債の活用、一般財源の利用を考えています。

市長
市答

③ 学校再編後の施設で活用出来るものについては、長寿命化等の検討をしつつ、地域活性化のために検討し活用策を検討していきたい。

質問

生徒たちが望む
中学校にするために

(木村 建一議員)

- ① 「競争力の高い人材を育てることが教育の目的」ということを、どのように考えますか。
- ② 『子どもたちのために』教員の多忙を解消し、授業に専念できるようにすることは欠かせません。検討することはありますか。
- ③ 「土肥を除く3中学校を1校にするなら、修善寺中かなと考えているが、ダメなのか」という市民の声にどう答えますか。

市長
教答知・徳・体を育みより
よい教育環境の構築

① 変化の激しい社会を生きるために、確かな学力、豊かな心、健やかな体の知・徳・体をバランスよく育てることが社会で活躍・貢献できる人材となっていきます。

② 管理職に職員の勤務時間の把握と管理をお願いし、子供と向き合う時間の確保に向けて、国や県に声を上げ続けていきます。

③ 3つの中学校の生徒がバス、車等を利用しても安全に登校できることと、校地面積を3.5ヘクタール程度と予定しておりますので、校地の選定は修善寺地区内に新たな校舎の建設を目指していきます。



伊豆市制施行 10 周年記念

「子ども議会」



を開催しました



市内の小学 6 年生、17 人の子ども議員は、7 月 25 日と 29 日の 2 日間の事前学習会で、サポーター議員の小長谷朗夫議員と青木靖議員から質問書の書き方や議場内でのマナーなどについて教わりました。

8 月 12 日、子ども議員は議場の演壇で、市長や教育長に対し、堂々と「わたしが住みたい 10 年後の伊豆市」と「楽しい学校づくり」をテーマに提案をしました。

子ども議員の小学校名・氏名・質問事項について、下記のとおり紹介します。

発言順序	小学校名	氏名	質問事項	答 弁
1	修善寺南	なかつがわましろ 中津川真白	川をきれいにするための活動について	市 長
2	中 伊 豆	しみず ゆめ 清水 優夢	いじめのない学校づくりについて	教育長
3	中 伊 豆	いのうえ ひろむ 井上 洋夢	みんなが来たくなる住みたくなる伊豆市について	市 長
4	修善寺南	すずき もえ 鈴木 萌恵	子育てしやすいまちづくりについて ～楽しく遊べる公園づくり～	市 長
5	熊 坂	やまもと みなと 山本 湊斗	企業誘致について ～大手メーカーの支社を展開～	市 長
6	土 肥	すずき ともや 鈴木 智哉	季節ごとのお祭りの開催について	市 長
7	修善寺東	あいぞ りん 相磯 凛	小学校の跡地利用について	市 長
8	修善寺東	たけだ さき 竹田 早希	伊豆市の自然を守る活動について	市 長
9	熊 坂	はんた こうめ 半田 小梅	伊豆市の自然環境とテーマパークについて	市 長
10	天 城	すずき まゆ 鈴木 麻由	観光客を増やす活動について	市 長
11	修善寺南	つちや かれん 土屋カレン	伊豆市の自然保護について	市 長
12	土 肥	さいじょう まみ 西條 真実	特別授業・スペシャル授業デーの創設について	教育長
13	中 伊 豆	かやま よしと 萱間 義斗	世界遺産登録とおいしい料理の紹介について	市 長
14	修善寺	すずき りょうま 鈴木 綾真	あいさつのできる学校づくりについて	教育長
15	天 城	ほりうち らん 堀内 蘭寧	伊豆市の自然を残す取り組みについて	市 長
16	修善寺南	ふじまき ゆい 藤巻 結衣	学校の全学年の交流について	教育長
17	修善寺	はたのたいが 波多野大河	総合病院の建設について	市 長

常任委員会行政視察報告

第1委員会

(平成26年7月14日～16日)

●滋賀県長浜市

「地域づくり協議会」の活動

長浜市では「市民自治基本条例」を制定し、地域づくり協議会の組織の位置づけをしている。23地区で大小様々な規模の協議会を設立し、地域の実情に応じた活動を行っている。

設立に至るまでは、有識者による講演会開催や先進地視察、出前講座や説明会の実施、職員による支援などきめ細かなサポートを行っている。さらに、設立や計画策定、活動支援、提案事業支援までの財政的支援も行っている。

中心市街地活性化の取組み

昭和58年に総事業費10億3700万円(4億3000万円は市民からの寄付)で「長浜城」が再興され、「長浜出世まつり」が始まる。昭和63年には民間8社と市による第3セクター「黒壁」が設立。黒壁を活かした町屋の活用を進め、

中心商店街を商業観光都市として復活させた。さらに、中心市街地の空き家対策として、まちなかの住宅の取得に関する支援制度を創設している。



▲黒壁を活用した中心商店街

●京都府京都市

空き家対策の取組み

京都市では「京都市空き家活用、適正管理等に関する条例」を施行した。そして、「まち再生・創造推進室」を創設し、①空き家発生の予防②空き家の活用・流通の促進③空き家の適正管理④跡地の活用⑤データベースの構築など空き

家対策事業を推進している。
ラウンドアバウト

桂坂ニュータウンにあるラウンドアバウトでは、行きかう車は、信号機がないため環路進入時は「一時停止」をし、左折で進入し、時計回りで走行するルールに従いスムーズに通過していた。

●京都府南丹市日吉町森林組合

「日吉町森林組合」の運営

日吉町の面積は、1万2334haで森林面積は1万700ha、森林率は86.7%、人工林率は41%である。

「森林経営計画」をもとに、森林調査プランナーが必要な施業や費用の見積を記載した「森林施業プラン」を作成し、所有者に送付する。所有者がサインをすればそのまま施業の注文書となる。職員は月給制で各種保険にも加入している。安定した雇用環境のため作業意欲・スキルアップ・若者の就労にもつながっている。

●兵庫県加西市

人口減少対策の取組み

「5万人都市再生」をスローガンに「人口増政策課」を設置。横断的な組織として、「人口増対策本部会議」と「人口増プロジェクトチーム」を設置し、①土地住宅グループ②産業・交通グループ③若者支援グループに分かれ、人口増施策を検討し、本部会議において実施の可否や担当部署を決定している。

●岡山県真庭市

バイオマスタウンの取組み

真庭市の森林面積は、市の面積の約8割をしめ、その内訳はヒノキ・スギを主体とした人工林60%、天然林40%である。

「バイオマスタワー真庭」に参加し、「バイオマスタウン構想」の概要説明を受けた後、木質ペレットの製造施設(銘建工業(株))、真庭バイオマス集積基地、真庭市役所(バイオマスボイラ)、木片コンクリート製品展示場(ランデス(株))の視察を行った。

真庭市内には、原木市場(3市場)、製材所(30社)、製品市場(1

第2委員会

(平成26年7月14日～16日)



▲ラッピングしたローカル電車

市場)があり、林業の土台ができている。来年4月には、2万世帯強の電力を賄うことができる「バイオマス発電所」が完成する予定である。

●滋賀県東近江市
国保ヘルスアップ事業の取組み
 東近江市では、市と医師会などが連携して、健診率向上の取組みをしている。

内容としては、①検診日から2週間以内に「結果お返し会」を開催し、1ヶ月以内に保健指導の実施②検診啓蒙のため、ローカル電車に「検診に行こう」のラッピング③要医療受診者への啓発(訪問・手紙)④隠れ糖尿病の早期発見や人口透析導入未然防止のため頸部エコーの実施などに取り組んでいる。

意見書

9月定例会で採択し、関係機関へ提出しました。

「地震財特法の延長に関する意見書」(要旨)

東海地震による災害から地域住民の生命と財産の安全を確保するためには、地震対策緊急整備事業計画の充実と期間の延長を図り、これらにより、地震対策の一層の充実に向けていかなければならない。

よって国においては、地震対策緊急整備事業計画の根拠となっている「地震防災対策強化地域における地震対策緊急整備事業計画に係る国の財政上の特別措置に関する法律」を延長するように強く要望する。

【提出先】
 衆議院議長、参議院議長
 内閣総理大臣、総務大臣
 財務大臣、文部科学大臣
 厚生労働大臣、国土交通大臣
 内閣府特命担当大臣
 消防庁長官、林野庁長官
 水産庁長官

「魅力ある地方都市の構築へ向けた施策の推進を求める意見書」(要旨)

地方の活性化を急速に進めるため、適切な措置を講じられるよう強く要望する。

- 1 立法、司法、行政を始め、経済・金融や研究・学術の機関などを全国の地方都市に分散させること
- 2 地方において中核的な機能を担うことのできる都市については、その地方の発展を支えるとともに、国内全体の推進力として力を発揮できる体制を構築するために、様々な権限の委譲を含め、行政上の機能を一層充実させるとともに、地域活性化のプラットフォームとして集中的な投資を行うこと
- 3 人口増加を目指す定住圏等において、新たな雇用の場を創出し、若い世代が暮らしやすく、子育てしやすい環境づくりに取り組めるよう、地域再生に高い効果が期待される事業について、地域の使いやすさを重視した再編や拡充を行うこと
- 4 首都圏から全国へ、大都市から地方への人の流れを生み出せるよう、Uターン・Iターンの促進や地域おこし協力隊、新・田舎暮らし隊の推進、都市高齢者の地方への住み替えを容易にする支援措置等に取り組むこと

5 地方における企業誘致や起業を促進するために必要な財政上、税制上の措置を講ずること

【提出先】

内閣総理大臣、財務大臣、総務大臣
 厚生労働大臣、経済産業大臣

「危険ドラッグ(脱法ハーブ)の根絶に向けた総合的な対策の強化を求める意見書」(要旨)

危険ドラッグの根絶に向けた総合的な対策を強化することを強く求める。

- 1 インターネットを含む国内外の販売・流通等に関する実態調査及び健康被害との因果関係に関する調査研究の推進、人員確保を含めた取締態勢の充実を図ること
 - 2 簡易鑑定ができる技術の開発をはじめ鑑定時間の短縮に向けた研究の推進、指定薬物の認定手続きの簡素化を図ること
 - 3 薬物乱用や再使用防止のために、「危険ドラッグ」の危険性の周知及び学校等での薬物教育の強化、相談体制・治療体制の整備を図ること
- 【提出先】
 内閣総理大臣、総務大臣
 厚生労働大臣、文部科学大臣
 国家公安委員会委員長

第1委員会所管事務調査

●公共施設の長寿命化対策の状況について(天城小学校)

天城小学校の校舎は築46年が経過しているが、昭和59年に耐震補強工事を行っている。

平成24年度は、内装・トイレ・屋根防水・改修工事を実施し、平成25年度は、長寿命化に伴い外装・モルタル補強工事を実施した。この改修工事により建物の寿命を20〜30年延ばそうというもの。市内には学校が11校あるがそのほとんどの建物が築40年以上経過している状況である。

第2委員会所管事務調査

●中学校統合に伴う校舎の現状課題について(教育委員会)

平成32年の4月に統合を考えた場合、人数は現在の修善寺中学校で対応できるが、通学の便や部活動について考慮すると、新しい候補地に建設することが良いと考えている。財源については、国庫補助金等を活用する

予定である。

●新しいこども園の建設に伴う用地と地域活性化について(健康福祉部)

建設用地については、無償貸与とする。地域の活性化のため、市内業者の参加については、福祉施設を運営する法人が国や県の基準に基づいて一般競争入札又は、指名競争入札をすることとなるため、市としては「お願い」にとどまると思われる。

●特別養護老人ホーム

「天城の杜」視察

利用者の介護度は平均3で1・2の方は少ない。職員数は70人弱で伊豆市内の職員は50人程度。職員数の規定はクリアしているが、不足している状況。自然環境や部屋の雰囲気も良く、エレベータを食事用と汚物用に使い分けるなど衛生面の管理も徹底されている。会議室は、地域貢献できるよう開かれた場所となっている。

議会傍聴・視聴について

本会議はどなたでも傍聴することができ、当日、本庁2階へお越しください。

なお、団体の場合には、事前に議会事務局までご連絡ください。

本会議の様子は、市のホームページからインターネットにより生中継と録画中継による配信もしていますので、ぜひご覧ください。

(議会事務局0558-72-9906)

12月定例会の予定

- 場所 本庁2階 議場
- 時間 午前9時30分〜
- 11月28日(金) 行政報告
議案上程
- 12月1日(月) 一般質問
- 2日(火) 一般質問
- 4日(木) 議案質疑
- 16日(火) 委員長報告
質疑・討論・採決

※日程については変更となる場合がありますので、ご了承ください。

編集後記

平成の大合併の時期に伊豆市が誕生して10年が経ちました。世界経済はグローバル化が進み、国内の産業構造は変化し、雇用形態の変化、低賃金化、デフレ化が進みました。それと同時に少子高齢化が進み、人口減少は社会全体に影響を与えるようになりました。

時代は確実に変化し続けています。そうした背景の中、伊豆市では道路事情が少しずつ改善され、市内の交通量は増加し、小売チェーン店の新たな店舗展開を呼び込んでいます。

私たちは、自然環境を保全しつつ、観光地としての地位も守り、かつ生活しやすいまちづくりを継続していくしかないと思います。ここに住む私たちが伊豆市の良さを認識し、愛着を持つことが、伊豆市の将来を良くしていくのだと思います。

広報委員 青木 靖